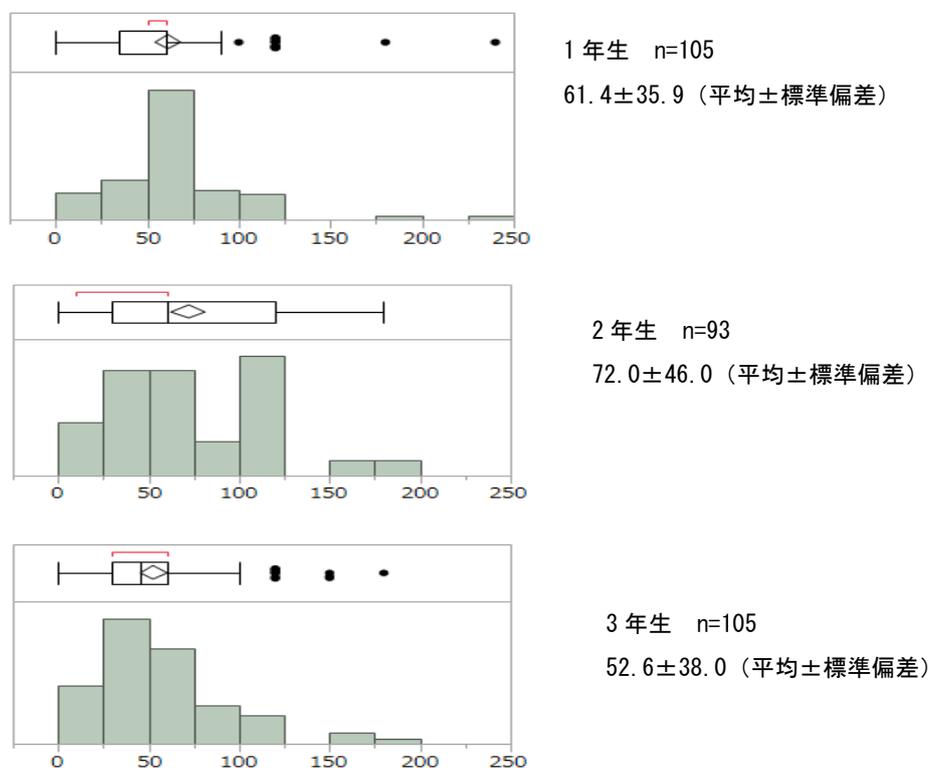


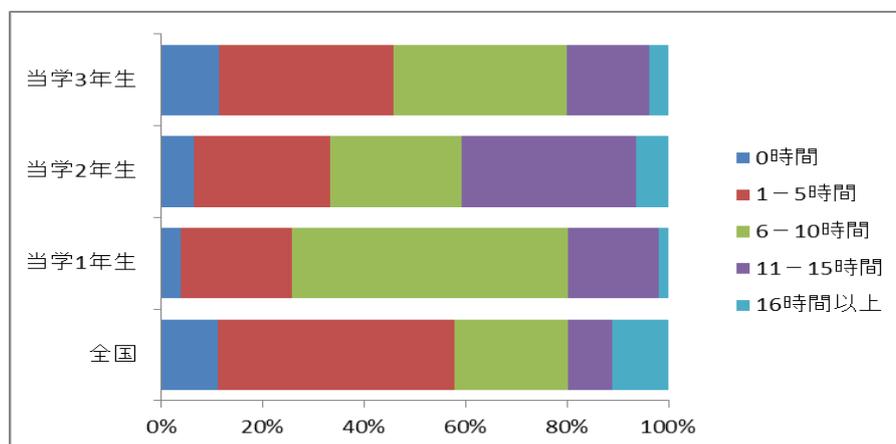
ア. 学修時間・学修実態

本学では、学生の学修への意欲や取組み状況を把握し、その結果を学修支援に役立てるため学修行動調査を実施しています。調査の一項目として、授業以外の「自己学修時間（分）」についても調査を実施しています。

学年別に集計した結果（平成30年度調査）は以下のとおりです。



2014年に行われた全国調査に合わせて、1日あたりの学修時間分数×7として1週間あたりの時間数に換算し、カテゴリー化して、その割合を比較しました。全国調査における大学（昼間部）看護・保健専攻の「授業の予習復習の時間」で、最も多いのは1～5時間（46.2%）ですが、本学では、1年生6～10時間（54.3%）、2年生では11～15時間（34.4%）3年生では6～10時間（34.2%）が最も多く、全国平均より学修時間は長い結果でした。ただし、この数値は1日あたりの分数を1週間に換算しており、未回答が30名いることもあって、高く見積もられている可能性があります。



全国は、国立教育政策研究所「大学生の学習実態に関する調査研究」2014年の結果による
ただし、全国調査はカテゴリーによる回答のため、階級の基準が完全に一致していない

イ. 授業評価アンケート結果

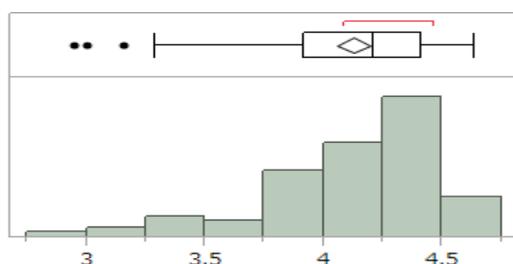
本学では、教育内容・教育方法の改善を目的に全科目について学生による授業評価アンケートを実施しています。

アンケートは 12 の質問項目から構成され、今回、科目の総合評価である「本講義に対する総合評価はどうでしたか」に対する集計結果（平成 29 年度調査）を公表します。

なお、各科目単位の結果は科目責任者に返却し、その結果を踏まえ「考察と課題」を科目責任者が提出することで、授業改善に繋げています。

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない



科目数	99
平均	4.126
標準偏差	0.364
中央値	4.21
範囲	2.95-4.64

ウ. 学修成果

ウー1 学内試験結果：GPA 分布

本学では、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と適切な学修指導に資することを目的に、各授業科目の成績評価に対応してグレード・ポイント（「GP」）を付与して計算する 1 単位当たりの GP の平均値（GPA）を採用しています。

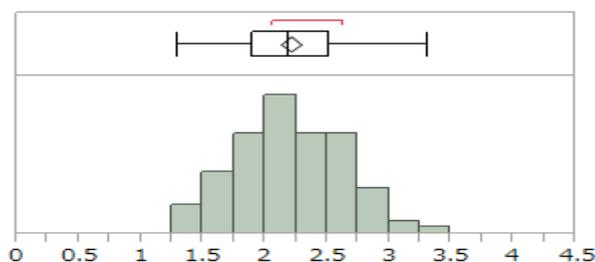
本学では、通常の 5 段階評価（10 点区切り）に基づく計算でなく、より厳格な数値の算出が可能となるように 1 点単位での GPA を計算しています。

<GP = (素点 - 55) ÷ 10> 例：78 点の GP は (78 - 55) ÷ 10 = 2.3

以下に、平成 29 年度に各学年が履修した必修科目の GPA の分布状況を示します。

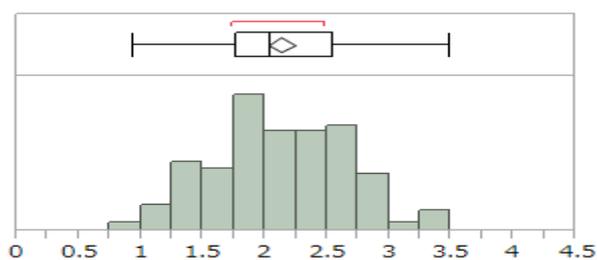
なお、各学年により履修科目が異なるため、学年ごとの学力状況を比較するデータではありません。

看護学部 1 年（平成 29 年度）



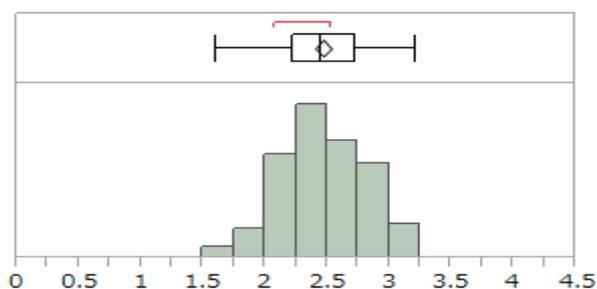
最大値	3.3
四分位点	2.5
中央値	2.2
四分位点	1.9
最小値	1.3

看護学部 2 年（平成 29 年度）



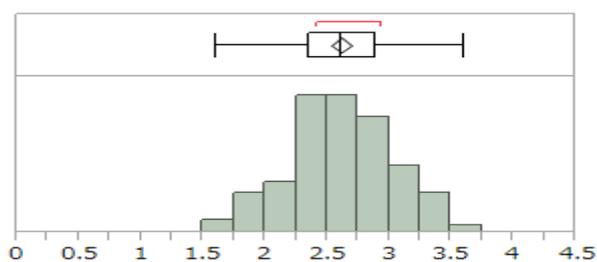
最大値	3.5
四分位点	2.6
中央値	2.0
四分位点	1.8
最小値	0.9

看護学部 3 年（平成 29 年度）



最大値	3.2
四分位点	2.7
中央値	2.4
四分位点	2.2
最小値	1.6

看護学部 4 年（平成 29 年度）



最大値	3.6
四分位点	2.9
中央値	2.6
四分位点	2.4
最小値	1.6

ウー 2 到達度自己評価

看護学部 4 年生に対し、自身の 4 年間の学びを振り返り、到達目標への達成度を自己評価するアンケートを実施しています。（結果は図表）

学生の達成状況を踏まえ、教育課程や指導方法等の改善に活用します。

卒業時の到達目標達成度アンケート調査結果（回答率：平成29年度 83.5%、平成28年度 92.0%、平成27年度 70.6%）

5：非常に当てはまる 4：かなり当てはまる 3：大体当てはまる
2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない

No.	質問内容	達成度								合計	達成率
		5	4	3	2	1	未記入	合計			
1	No.1 「カトリックの愛の精神」に基づく、生命の価値、人間の尊厳について考え、保健医療福祉における全人的ケアの基本を身につけることができるようになった。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	14	25	47	2	3	0	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	13	23	56	12	0	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	6	29	46	1	2	0	84(件)		
	No.2 人を全人的、すなわち、身体的、心理、社会的、霊的(スピリチュアル)な存在としてとらえ、一人ひとりの人間存在そのものに価値を見出す事ができる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	16	26	34	15	0	0	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	9	37	51	6	1	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	11	26	42	4	1	0	84(件)		
	No.3 人の多様な価値観・思いや生活背景について関心を持ち、対象を尊重した行動をとることができる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	20	26	30	10	5	0	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	14	40	37	10	2	1	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	14	32	29	6	3	0	84(件)		
No.4 人は尊厳ある存在であることを認識し、対象の人としての完成(幸福)に向けて信頼と愛をもって支援することができる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計			
	平成29年度 (2018.3月) 卒業生	17	27	34	11	2	0	91(件)			
	平成28年度 (2017.3月) 卒業生	9	44	38	11	2	0	104(件)			
	平成27年度 (2016.3月) 卒業生	12	33	31	5	3	0	84(件)			
2	No.5 医療技術の進歩に伴う人間の生存と派生する諸問題を学び、人間の尊厳を尊重した社会の在り方を考え、倫理的本質を探究することができるようになった。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	9	34	38	10	0	0	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	8	35	50	11	0	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	5	30	44	3	2	0	84(件)		
	No.6 人の生命(生から死まで)に関する医療・看護技術と派生する倫理的問題を述べることができる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	13	28	39	11	0	0	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	10	22	57	14	1	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	5	32	34	11	2	0	84(件)		
	No.7 看護職の倫理規定や看護実践に関わる倫理の原則を遵守することの必要性を説明できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	10	34	37	9	1	0	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	10	34	48	10	2	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	10	26	35	10	3	0	84(件)		
No.8 看護の対象の人格の尊厳に由来する基本的人権の尊重と、その擁護に向けた行動をとることができる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計			
	平成29年度 (2018.3月) 卒業生	16	33	28	11	2	1	91(件)			
	平成28年度 (2017.3月) 卒業生	12	37	45	8	2	0	104(件)			
	平成27年度 (2016.3月) 卒業生	14	29	33	6	2	0	84(件)			

5:非常に当てはまる 4:かなり当てはまる 3:大体当てはまる
 2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない

No.	質問内容	回答年度								合計	グラフ
		5	4	3	2	1	未記入	合計			
3	No.9 他者との相互作用、人間関係の諸側面について理解し、人間の心理や行動に感心を持つことができるようになった。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度(2018.3月)卒業生	16	30	32	10	2	1	91(件)		
		平成28年度(2017.3月)卒業生	17.58%	32.97%	35.16%	10.99%	2.20%	1.10%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	19	42	35	6	2	0	104(件)		
3	No.10 看護の対象の全人的な痛みや喜びに関心を持ち、共感することができる。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度(2018.3月)卒業生	22	26	26	12	5	0	91(件)		
		平成28年度(2017.3月)卒業生	24.18%	28.57%	28.57%	13.19%	5.49%	0.00%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	19	38	37	8	2	0	104(件)		
3	No.11 看護の対象となる個あるいは集団との相互依存／協働的な関係の在り方について説明できる。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度(2018.3月)卒業生	11	38	33	8	1	0	91(件)		
		平成28年度(2017.3月)卒業生	12.09%	41.76%	36.26%	8.79%	1.10%	0.00%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	9	40	46	7	2	0	104(件)		
3	No.12 看護の対象と探動的なコミュニケーションをはかり支持的行動をとることができる。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度(2018.3月)卒業生	11	38	33	8	1	0	91(件)		
		平成28年度(2017.3月)卒業生	12.09%	41.76%	36.26%	8.79%	1.10%	0.00%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	9	40	46	7	2	0	104(件)		
3	No.13 効果的な人間関係をとることができる。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度(2018.3月)卒業生	11	31	34	14	0	1	91(件)		
		平成28年度(2017.3月)卒業生	12.09%	34.07%	37.36%	15.38%	0.00%	1.10%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	13	34	46	9	2	0	104(件)		
4	No.14 ケアリングを基本概念とする理論であるロイ適応看護モデルを理解することができるようになった。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度(2018.3月)卒業生	12	32	33	10	3	1	91(件)		
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13.19%	35.16%	36.26%	10.99%	3.30%	1.10%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	9	25	43	5	2	0	84(件)		
4	No.15 ロイ適応看護モデルを理解できる。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度(2018.3月)卒業生	12	32	33	10	3	1	91(件)		
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13.19%	35.16%	36.26%	10.99%	3.30%	1.10%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	10	38	47	9	0	0	104(件)		
4	No.16 ロイモデルの生理的様式と心理社会的様式で、健康問題をもつ人のアセスメントができる。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
		平成29年度(2018.3月)卒業生	14	34	28	11	3	1	91(件)		
		平成28年度(2017.3月)卒業生	15.38%	37.36%	30.77%	12.09%	3.30%	1.10%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	11	41	45	5	2	0	104(件)		

5:非常に当てはまる 4:かなり当てはまる 3:大体当てはまる
 2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない

No.	質問内容	回答年度								合計	グラフ
		5	4	3	2	1	未記入	合計			
5	No.17 ロイモデルを用いて特定された健康問題を看護診断で表現することができる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	13	39	26	10	2	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	14.29%	42.86%	28.57%	10.99%	2.20%	1.10%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	6	41	45	10	2	0	104(件)		
5	No.18 人間の生命現象、疾病の原因や成り立ちを学び、健康の維持、増進に向けての医療の基礎を習得できるようになった。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	10	35	31	14	0	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	10.99%	38.46%	34.07%	15.38%	0.00%	1.10%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	11	34	51	7	1	0	104(件)		
5	No.19 人間の生命現象を理解し、健康の保持・増進のために行わなければならないことを説明できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	16	31	31	11	1	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	17.58%	34.07%	34.07%	12.09%	1.10%	1.10%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	11	34	50	9	0	0	104(件)		
5	No.20 疾病の原因を理解し、疾病予防のために行わなければならないことを説明できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	15	34	27	13	1	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	16.48%	37.36%	29.67%	14.29%	1.10%	1.10%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	6	44	47	7	0	0	104(件)		
5	No.21 疾病の原因と経過を理解し、疾病予防や重症化防止のための適切な看護を説明できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	14	30	33	12	1	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	15.38%	32.97%	36.26%	13.19%	1.10%	1.10%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	7	35	55	6	1	0	104(件)		
6	No.22 看護の概念、本質の理解を基礎に、小児期から老年期に至る発達各期の人間の健康の維持、回復、増進を阻害する要因を理解し、看護介入のための知識、技術を習得できるようになった。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	9	35	28	18	0	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	9.89%	38.46%	30.77%	19.78%	0.00%	1.10%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	7	37	53	5	1	1	104(件)		
6	No.23 対象者の発達課題と発達危機について説明できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	8	38	33	11	0	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	8.79%	41.76%	36.26%	12.09%	0.00%	1.10%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	9	41	47	6	1	0	104(件)		
6	No.24 対象者の健康の維持・回復・増進に影響している要因について説明できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	9	42	24	13	2	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	9.89%	46.15%	26.37%	14.29%	2.20%	1.10%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	7	39	49	8	1	0	104(件)		
6	No.24 対象者の健康の維持・回復・増進に影響している要因について説明できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	9	42	24	13	2	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	9.89%	46.15%	26.37%	14.29%	2.20%	1.10%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	7	39	49	8	1	0	104(件)		
6	No.24 対象者の健康の維持・回復・増進に影響している要因について説明できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	5	29	41	7	2	0	84(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	5.95%	34.52%	48.81%	8.33%	2.38%	0.00%	100.00%		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	5	29	41	7	2	0	84(件)		

5:非常に当てはまる 4:かなり当てはまる 3:大体当てはまる
 2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない

No.	質問内容	回答年度								合計	グラフ
		5	4	3	2	1	未記入	合計			
No.25	対象者の健康を阻害している要因を列挙し優先度について説明できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	12	38	27	12	1	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	6	48	42	7	1	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	8	27	43	4	2	0	84(件)		
			13.19%	41.76%	29.67%	13.19%	1.10%	1.10%	100.00%		
			5.77%	46.15%	40.38%	6.73%	0.96%	0.00%	100.00%		
			9.52%	32.14%	51.19%	4.76%	2.38%	0.00%	100.00%		
No.26	対象者の看護介入に必要な技術を使い、適切に実施できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	7	36	39	8	0	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	6	37	54	7	0	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	5	32	38	7	2	0	84(件)		
			7.69%	39.56%	42.86%	8.79%	0.00%	1.10%	100.00%		
			5.77%	35.58%	51.92%	6.73%	0.00%	0.00%	100.00%		
			5.95%	38.10%	45.24%	8.33%	2.38%	0.00%	100.00%		
No.27	保健医療福祉のそれぞれを必要とする段階において、看護学の体系的学びを実践学習のなかで展開することができるようになった。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	11	30	37	12	0	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	8	29	61	4	2	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	5	30	43	5	1	0	84(件)		
			12.09%	32.97%	40.66%	13.19%	0.00%	1.10%	100.00%		
			7.69%	27.88%	58.65%	3.85%	1.92%	0.00%	100.00%		
			5.95%	35.71%	51.19%	5.95%	1.19%	0.00%	100.00%		
No.28	保健・医療・福祉領域における看護職の機能と役割、課題について述べるができる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	9	39	28	14	0	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	9	35	51	8	1	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	7	21	47	7	2	0	84(件)		
			9.89%	42.86%	30.77%	15.38%	0.00%	1.10%	100.00%		
			8.65%	33.65%	49.04%	7.69%	0.96%	0.00%	100.00%		
			8.33%	25.00%	55.95%	8.33%	2.38%	0.00%	100.00%		
7 No.29	保健・医療・福祉の各専門職との情報や目的の共有ができ、協調能力を身につけることができる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	11	37	30	11	1	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	10	36	52	6	0	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	11	28	38	7	0	0	84(件)		
			12.09%	40.66%	32.97%	12.09%	1.10%	1.10%	100.00%		
			9.62%	34.62%	50.00%	5.77%	0.00%	0.00%	100.00%		
			13.10%	33.33%	45.24%	8.33%	0.00%	0.00%	100.00%		
No.30	保健・医療・福祉の各専門職の機能と役割について述べることができ、他職種との共有された目標に対して、看護職としての役割を遂行できる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	10	36	31	13	0	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	8	35	54	7	0	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	9	22	44	8	1	0	84(件)		
			10.99%	39.56%	34.07%	14.29%	0.00%	1.10%	100.00%		
			7.69%	33.65%	51.92%	6.73%	0.00%	0.00%	100.00%		
			10.71%	26.19%	52.38%	9.52%	1.19%	0.00%	100.00%		
No.31	保健・医療・福祉の顕在的・潜在的問題を延べることができ、現実を適切にアセスメントし、将来の課題を建設的に自ら考えることができる。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	11	31	35	13	0	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	10	27	58	9	0	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	9	23	42	8	2	0	84(件)		
			12.09%	34.07%	38.46%	14.29%	0.00%	1.10%	100.00%		
			9.62%	25.96%	55.77%	8.65%	0.00%	0.00%	100.00%		
			10.71%	27.38%	50.00%	9.52%	2.38%	0.00%	100.00%		
No.32	学習体験から課題を発見し、根拠ある看護実践について継続的に探求し学習していく能力を身につけることができるようになった。	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計	100.00% 80.00% 60.00% 40.00% 20.00% 0.00%	
		平成29年度 (2018.3月) 卒業生	15	29	32	14	0	1	91(件)		
		平成28年度 (2017.3月) 卒業生	13	33	49	8	1	0	104(件)		
		平成27年度 (2016.3月) 卒業生	10	33	32	9	0	0	84(件)		
			16.48%	31.87%	35.16%	15.38%	0.00%	1.10%	100.00%		
			12.50%	31.73%	47.12%	7.69%	0.96%	0.00%	100.00%		
			11.90%	39.29%	38.10%	10.71%	0.00%	0.00%	100.00%		

5:非常に当てはまる 4:かなり当てはまる 3:大体当てはまる
2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない

8

No.	質問内容	選択肢								合計	グラフ
		回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計		
No.33	既存の研究成果を理解できる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	12	33	34	11	1	0	91(件)		
		13.19%	36.26%	37.36%	12.09%	1.10%	0.00%	100.00%			
		平成28年度(2017.3月)卒業生	7	37	53	6	1	0	104(件)		
		6.73%	35.58%	50.96%	5.77%	0.96%	0.00%	100.00%			
No.34	既存の成果に基づき、看護過程を展開することができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	11	34	35	10	0	1	91(件)		
		12.09%	37.36%	38.46%	10.99%	0.00%	1.10%	100.00%			
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	40	46	10	0	0	104(件)		
		7.69%	38.46%	44.23%	9.62%	0.00%	0.00%	100.00%			
No.35	看護研究の意義や方法を理解できる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	7	37	37	9	0	1	91(件)		
		7.69%	40.66%	40.66%	9.89%	0.00%	1.10%	100.00%			
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	28	56	12	0	0	104(件)		
		7.69%	26.92%	53.85%	11.54%	0.00%	0.00%	100.00%			
No.36	情報処理、危機管理、他の専門職種との協働を理解し、看護職の責務とともに医療安全管理の能力を身につけることができるようになった。	平成29年度(2018.3月)卒業生	15	29	36	10	0	1	91(件)		
		16.48%	31.87%	39.56%	10.99%	0.00%	1.10%	100.00%			
		平成28年度(2017.3月)卒業生	9	37	52	5	1	0	104(件)		
		8.65%	35.58%	50.00%	4.81%	0.96%	0.00%	100.00%			
No.37	必要とされる情報を整理するための情報処理を行うことができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	11	31	32	16	0	1	91(件)		
		12.09%	34.07%	35.16%	17.58%	0.00%	1.10%	100.00%			
		平成28年度(2017.3月)卒業生	9	41	45	9	0	0	104(件)		
		8.65%	39.42%	43.27%	8.65%	0.00%	0.00%	100.00%			
No.38	医療安全を保持するための危機管理について理解できる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	13	38	25	13	1	1	91(件)		
		14.29%	41.76%	27.47%	14.29%	1.10%	1.10%	100.00%			
		平成28年度(2017.3月)卒業生	9	42	43	9	1	0	104(件)		
		8.65%	40.38%	41.35%	8.65%	0.96%	0.00%	100.00%			
No.39	医療安全管理を行うために看護職が果たすべき責務について理解できる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	14	35	30	10	1	1	91(件)		
		15.38%	38.46%	32.97%	10.99%	1.10%	1.10%	100.00%			
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	44	43	9	0	0	104(件)		
		7.69%	42.31%	41.35%	8.65%	0.00%	0.00%	100.00%			
No.40	保健医療福祉制度、医療資源、医療経済について学び、批判的に吟味し、将来の課題と看護職の役割を見いだす能力を身につけることができるようになった。	平成29年度(2018.3月)卒業生	12	31	36	11	0	1	91(件)		
		13.19%	34.07%	39.56%	12.09%	0.00%	1.10%	100.00%			
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	37	48	10	0	1	104(件)		
		7.69%	35.58%	46.15%	9.62%	0.00%	0.96%	100.00%			
No.40	保健医療福祉制度、医療資源、医療経済について学び、批判的に吟味し、将来の課題と看護職の役割を見いだす能力を身につけることができるようになった。	平成27年度(2016.3月)卒業生	7	27	39	9	2	0	84(件)		
		8.33%	32.14%	46.43%	10.71%	2.38%	0.00%	100.00%			

9

5:非常に当てはまる 4:かなり当てはまる 3:大体当てはまる
2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない

No.	質問内容	回答年度	選択肢					未記入	合計	グラフ
			5	4	3	2	1			
No.41	保健医療福祉制度の概要を理解し、看護職の法的位置づけを述べるができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	10	31	33	13	1	3	91(件)	
			10.99%	34.07%	36.26%	14.29%	1.10%	3.30%	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	6	30	57	10	1	0	104(件)	
			5.77%	28.85%	54.81%	9.62%	0.96%	0.00%	100.00%	
No.42	看護職が担うべき社会的責務を認識し、自らの役割を述べるができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	11	32	35	9	1	3	91(件)	
			12.09%	35.16%	38.46%	9.89%	1.10%	3.30%	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	11	39	44	10	0	0	104(件)	
			10.58%	37.50%	42.31%	9.62%	0.00%	0.00%	100.00%	
No.43	社会資源の概要を理解し、具体的な資源活用の実際を述べるができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	12	28	41	6	1	3	91(件)	
			13.19%	30.77%	45.05%	6.59%	1.10%	3.30%	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	6	39	49	10	0	0	104(件)	
			5.77%	37.50%	47.12%	9.62%	0.00%	0.00%	100.00%	
No.44	社会経済的な発展・維持と健康問題との関連を述べるができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	12	30	36	9	1	3	91(件)	
			13.19%	32.97%	39.56%	9.89%	1.10%	3.30%	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	7	32	53	12	0	0	104(件)	
			6.73%	30.77%	50.96%	11.54%	0.00%	0.00%	100.00%	
No.45	健康の保持増進のための活動を通して、国民の健康の向上の一端を担う看護職の役割を述べるができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	14	28	36	10	0	3	91(件)	
			15.38%	30.77%	39.56%	10.99%	0.00%	3.30%	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	39	48	8	1	0	104(件)	
			7.69%	37.50%	46.15%	7.69%	0.96%	0.00%	100.00%	
No.46	異文化理解の姿勢と学びを深め、国際看護、国際保健医療福祉において貢献しうる国際的通用性の重要性を理解することができるようになった。	平成29年度(2018.3月)卒業生	10	30	34	14	0	3	91(件)	
			10.99%	32.97%	37.36%	15.38%	0.00%	3.30%	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	11	37	48	8	0	0	104(件)	
			10.58%	35.58%	46.15%	7.69%	0.00%	0.00%	100.00%	
No.47	国際社会の中で生きる一人の存在であることを理解できる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	11	28	30	15	1	6	91(件)	
			12.09%	30.77%	32.97%	16.48%	1.10%	6.59%	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	14	34	47	8	1	0	104(件)	
			13.46%	32.69%	45.19%	7.69%	0.96%	0.00%	100.00%	
No.48	自己とは異なる文化や慣習をもつ人々や、意見や考え方が違う人々の存在を知り、認めることができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	11	28	30	14	2	6	91(件)	
			12.09%	30.77%	32.97%	15.38%	2.20%	6.59%	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	23	36	35	9	1	0	104(件)	
			22.12%	34.62%	33.65%	8.65%	0.96%	0.00%	100.00%	
No.49	自己とは異なる文化や慣習をもつ人々や、意見や考え方が違う人々の存在を知り、認めることができる。	平成27年度(2016.3月)卒業生	9	27	39	2	2	5	84(件)	
			10.71%	32.14%	46.43%	2.38%	2.38%	5.95%	100.00%	

5:非常に当てはまる 4:かなり当てはまる 3:大体当てはまる
 2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない

No.	質問文	回答年度	選択肢					未記入	合計	%	%
			5	4	3	2	1				
No.49	自己とは異なる文化や慣習をもつ人々や、意見や考え方が違う人々を尊重し、協調・協同ができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	14	26	29	14	2	6	91(件)	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	15.38%	28.57%	31.87%	15.38%	2.20%	6.59%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	12	23	38	4	2	5	84(件)	100.00%	
		平成27年度(2016.3月)卒業生	14.29%	27.38%	45.24%	4.76%	2.38%	5.95%	100.00%		
No.50	世界中で発生する日々の出来事に関心を持つことができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	12	30	31	11	1	6	91(件)	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13.19%	32.97%	34.07%	12.09%	1.10%	6.59%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	12	40	43	7	2	0	104(件)	100.00%	
		平成27年度(2016.3月)卒業生	11.54%	38.46%	41.35%	6.73%	1.92%	0.00%	100.00%		
No.51	日本国以外の国や地域において生活する人々の健康状況から、必要な看護を思い描くことができる。	平成29年度(2018.3月)卒業生	14	26	28	15	0	8	91(件)	100.00%	
		平成28年度(2017.3月)卒業生	15.38%	28.57%	30.77%	16.48%	0.00%	8.79%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	13	30	46	7	2	6	104(件)	100.00%	
		平成27年度(2016.3月)卒業生	12.50%	28.85%	44.23%	6.73%	1.92%	5.77%	100.00%		
		平成27年度(2016.3月)卒業生	7	22	43	2	1	9	84(件)	100.00%	
		平成27年度(2016.3月)卒業生	8.33%	26.19%	51.19%	2.38%	1.19%	10.71%	100.00%		

エ 資格取得等実績

本学看護学部は、看護師及び保健師（選択コース）の国家試験を受験します。
平成 29 年度卒業生の国家試験の結果は以下のとおりです。

職 種	全国合格率 (%) (新卒のみ/全体)	本 学				
		出願者	受験者	合格者	不合格者	合格率 (%)
看護師	96.3/91.0	109	109	108	1	99.1
保健師	85.6/81.4	17	17	17	0	100
助産師	99.4/98.7	9	9	9	0	100